

10月の学級づくり【中学校版】

10月は、実りの秋。過ごしやすい気候となりました。校内での活動が多くなり、落ち着いて学習活動に取り組める時期です。学習にじっくりと取り組み、学力・体力を伸ばし、心を豊かにしていきたいものです。そのための土台となるのが、学級づくりです。



教師の態度や言葉が心を育む

S先生は、「どの子ども発言させたい」と願って授業を構想していきました。しかし、「発言できる」という結果だけを求めたために、いつの間にか「発言できることがよいことで、できないことはよくないこと」という空気を生み出してしまいました。

やがて学級には、人を見下ろすような視線や、できないことを中傷するような言動が見られるようになっていきました。

教師が意図する・しないに関わらず、学校生活を営む中で、生徒自らが人権感覚を学び取っていくことがあります。教師の態度や表情、言動の一つ一つも、子どもの心に大きく影響するのです。

***こんな教師って、素敵!! 例 ***

自信なくつぶやいた「その子の瞬間」を笑顔で受け止める教師

「おはよう」の声が昨日と違って少し大きな時に、心を寄せて大きな声で返す教師
教師の温かい態度や言葉が生徒の心に響きます。

テスト勉強を活用した学級づくり

「入試は個人戦ではなくクラス全体で臨む団体戦である」という方がいます。それは定期テストでも同じことが言えるのではないのでしょうか。

「勉強方法が分からない」等の悩みの共有

悩みを生活記録やアンケートに書いてもらい、それを見合うことで、みんなが悩みをもっていることを共有できると、安心して高め合おうという雰囲気につながります。

自分の学習の一工夫の共有

悩みに加え、工夫していることも付け加えるとそれを読み合い「これなら取り組みそうだな」というものがつかめるのではないのでしょうか。

さらにグループでのテスト勉強を学活で位置付ける、休み時間に教え合う姿に担任や教科担任が寄り添うことなどを通して、お互いが心を開き、団体戦の雰囲気になると、学力も向上します。

研究授業、早く来ないかな!

生徒は、人に見られることを嫌がる場合があります。そのため研究授業があることを生徒に内緒にしている先生がいますが、どうでしょう?

○ 人に見られていると...

より派手に振る舞う生徒がいます。しかし、それも生徒の良さが表に出たととらえ、授業に生かしたいものです。

○ 人に見られていると...

じっと固まってしまう生徒がいます。しかし、その子の緊張をほぐすことは、クラス全体の緊張をほぐすことに繋がります。

○ 人に見られた後には...

先生が、クラスの生徒に感謝の思いを伝えましょう。授業によってクラス全体が成長していることに、生徒は気付くはずですが。

研究授業で、生徒も先生も伸びます。授業前に伝えて、生徒と一緒に授業づくりをしてみても、

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

～言葉で相手に伝えることが苦手生徒～

「語彙が少ないのでは、と感じる生徒」には

状況や様子を表す言葉を引き出すよう声掛けを工夫したり、1分間スピーチ学習で話し方のモデルを提示したりしては、

「文章を構成したり、考えをまとめたりすることが不得手と思われる生徒」には

「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」の項目についてメモをして、順番に並び替え、メモを見て話してみても、

「状況や自分の気持ちを表現することが不得手と思われる生徒」には

「～ということかな」などと時間をかけて話を聞きながら不十分な部分を補い、「分ってもらえた」と感じられるようにしては、